

次期特定鳥獣（ニホンジカ）保護管理計画策定に向けた専門家の意見

○山梨県山岳連盟

山岳レンジャーとして、毎年、**高山帯、亜高山帯の山**に入っているが、ニホンジカによる**自然植生への被害が大きくなっている**。今まで高山植物が非常にきれいだった場所が、**裸地化し、植生が変化**している。

○県猟友会

ニホンジカは、**捕りにくくなっている**。最近では、**林道付近ではニホンジカは見られない**。今までと違って、ニホンジカを捕獲するのに**労力がかかる**。

高山で捕獲を行う場合、**5人から10人かけて捕獲を行っても、1頭も捕獲できないことも多々ある**。

○（株）野生動物保護管理事務所

山梨県は、環境が多様、標高差が大きく、希少な自然も含まれている。そういう中で、捕獲ができている場所、できていない場所が分かれてきている。特に**高標高域での取り組みが大切**になってくる。**平成13年度**から山梨県の調査に関わっているが、まだこの頃は、**高標高域にいなかった**。そのため、標高が高いところでは調査が行われていないため、把握できていない状況にある。今後は、**継続して、高標高域での調査、捕獲の取り組みが重要**となってくる。

ニホンジカは**季節移動**し、夏はいるが冬はいない、冬はいるが夏はいないなど、場所によって状況が異なることから、**捕獲の適期も地域で異なる**。効率的に捕獲を行うためにも季節の変化を捉えながら、ニホンジカの情報を集め、どの時期にどこで捕獲を行うか、**戦略的に行う必要がある**。

○森林総合研究所

森林への被害は、富士山、八ヶ岳、秩父山系について調査を行っているが、**秩父山系においては、かなり標高が高い所までニホンジカの被害が確認**されている。